



⑱ 「小野組持前橋大渡製糸場書類」
より尾高惇忠大属への通達

明治7（1874）年11月28日

渋沢栄一は、明治3年富岡製糸場設置主任となり、フランス人ポール・ブリューナ雇用を決議するなど、富岡製糸場の建設を進めました。一方、現地での用地選定・工場建設、女工募集などを行ったのが、当時勸農局役人であり恩師、従兄・義兄でもあった尾高惇忠でした。この史料には、小野組破産で抵当になった前橋製糸場に関する尾高と河瀬秀治（内務大丞兼勸業寮権頭、のち群馬県令）とのやりとりが記されています。

群馬県行政文書 A0384A0G 126 4-1

【史料⑱】

第九百八拾三号

小野善助より兼ねて抵当差し出し

これ有り候内、前橋町製糸場繭・生

糸取り調べ、悉皆富岡表へ運送封

印のまま預かり置き申すべく候、かつ製糸機械

附属品そのほか有る品残らず取り調べ、品これ書き

取り、散乱致さざる様申し談じ、書面取り置き

申すべく候、此の段相達し候也

（明治）

七年十一月廿八日

河瀬権頭

尾高大属殿
宮本重興殿